

J A M 政策NEWS

【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】社会政策局

03-3451-2586

E-MAIL : syakai@jam-union.or.jp

第43回衆議院選挙

民主党大躍進、JAM最重点・重点候補全員当選！

第43回衆議院選挙は、11月9日に投票が行われ、即日開票の結果、民主党は解散時の137議席を40議席も上回る177議席を獲得して躍進しました。特に比例代表では72議席を獲得。自民党(69議席)を抜いてトップに立ちました。

二大政党による政権交代の時代へ

小選挙区の全国平均投票率が59.86%と、過去最低だった1996年総選挙に次ぐ低い水準であったにもかかわらず、民主党が議席を大きく増やし、比例で最多議席を獲得したことは、政権交代を訴え、民主党が打ち出したマニフェスト(政権公約)が、国民の信任を得られたことを示しています。また、本格的な二大政党時代の幕開けともいえます。

JAM最重点・重点候補完勝

また、JAMの最重点候補、田中けいしゅう、筒井信隆の両氏が手堅く勝利を収めるとともに、JAM重点推薦候補15人の全員が当選を果たしました。JAMの組織をあげた取り組みが、見事に功を奏した結果であり、来年の参議院選挙「津田やたろう」の取り組みに弾みをつけました。

投票率向上が大きな課題

一方、残された課題も多くあります。自民党

が10議席減らしたとはいえ、自・公・保連立与党に絶対的な安定多数を許し、私たちが当初めざしていた政権交代が実現できませんでした。

また、連合を中心に、投票率向上のための「選挙に行こうよ」運動に取り組みましたが、結果として前回選挙より下回る結果となりました。投票率が70%を超えれば政権交代も可能であったとも思われ、残念な結果となりました。

11月10日、連合は草野事務局長が談話を発表し、次のように述べています。

自民党が議席を減らしたことは、自民党政治からの脱却を訴えた小泉改革が、何ら内容を伴っていないことへの国民の厳しい審判の結果である。

民主党がマニフェストを掲げて政策論争を挑んだ結果、他の各党も政権公約を発表。具体的な政策を競い合う選挙になったことは評価すべきである。

投票率が過去2番目に低い水準に終わったことは、国民全体として厳しく受け止めなければならない。労働組合など、改革を求める者が中心となって、政治風土の抜本的な改革に向けた取り組みを進めていくことが求められている。

最重点推薦候補者結果

神奈川5区		有権者 427,433人	確定投票率 59.56%
当	田中 慶秋	民主 前	123,905 50.30%
	坂井 学	自民 新	91,513 37.20%
新潟6区		有権者 305,432人	確定投票率 73.45%
当	筒井 信隆	民主 前	89,693 40.60%
	高鳥 修一	自民 新	64,582 29.30%

その他の推薦候補の結果等、詳細は、添付ファイルをご参照ください。